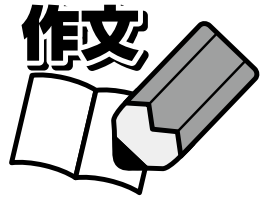


全国コンクール 優秀賞

群馬県コンクール 金賞



## お米のワクワクとホカホカ

安中市立磯部小学校 5年 池田 陽葵

私は、五年生になって総合の授業で、クラスみんなで稲を育て、米作りの学習をしています。春に代かきや田植えの体験をして、稲の成長を観察しながら、おいしいお米がたくさんしゅうかくできるようにと、ワクワクしながら育てています。ちょうど、夏休みのある日、近くの田んぼにいたおじさんが、

「ほら、この一ふさにどのくらいの米つぶができるか知ってるか？ ほーら、何ふさか取って数えてごらん。おお、このふさはいっぱいついてんな。」

と声をかけて、三ふさ持たせてくれました。私はそれを持って帰って、一ふさずつつぶをばらして数えてみました。そしたら、一つのふさは百十二つぶ、もう一つは百十一つぶ。最後に、おじさんがこのふさはいっぱいついてるぞと言ったふさには、なんと百八十六つぶも実っていました。私は、あの一本の細い稲に、百つぶ以上の、しかも最後に数えたふさには百八十以上のつぶが実るなんて、びっくりしました。そして、おじさんは、もう一つ面白い話をしてくれました。

「となり同士ならんでさあ、どちらもおれが作ってる田んぼだけど、田んぼに住んでる生き物がちがうんだよ。不思議だいなあ。」

と言うのです。とう명한容器に、田んぼの水をすくってみると、小さな黒い生物が、ちょんちょん、ぶかぶか、すいすい動いているのがみえました。ひとすくいの水の中に、思ったよりたくさんの生物がいて、なんだか楽しくなって、ずっと見つめてしまいました。本当にとなりにならんでいる田んぼなのに、なんで住んでる生き物にちがいがあるのか不思議です。きっと、好きな土とか、食べ物がちがうのかな。なんだかまた、調べたくなりました。

五年生になってもう一つ体験したことがあります。それは林間学校です。その体験学習の時、各はんでカレーライスを作ることになっていて、まきわりをして、火起こしをして、初めて飯ごうでご飯をたきました。その時、出来上がったご飯がとてもホカホカして、ほんわかあまくてとてもおいしくたけました。私は、飯ごうでたいたご飯がこんなにおいしいんだと感動して、その時のおいしさがわすれられません。ふだんすい飯器でたいているご飯もおいしいけど、飯ごうでたいたご飯の味は、特別でした。自然の中で、みんなと食べるご飯ってやっぱりおいしいなと思いました。今度、キャンプなどをする機会があったら、また飯ごうでご飯をたいて、みんなで笑いながらいっぱい食べたいなと思います。

今回、米作りの勉強をしていて、実際作っている人と話す機会があって、そして、飯ごうでたいたわすれられないおいしいご飯を食べて、一生けん命育ったお米一つ一つを大事に食べていきたいと思いました。